

報告書抄録

ふりがな	りゅうほしじょういせき							
書名	竜法師城遺跡							
シリーズ名	近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ番号	4							
編著者名	細川修平・畑中英二・大道和人・堀真人							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	滋賀県大津市京町4丁目1番1号			滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2				
発行年月日	平成18年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
りゅうほしじょういせき 竜法師城遺跡	こうかし 甲賀市 こうなんちょう 甲南町 りゅうほし 竜法師	366	021	136度 10分 08秒	34度 54分 38秒	7,000	20030407 ～ 20030829	近畿自動車道名古屋神戸線建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
竜法師城遺跡	山城 その他	室町 江戸～近代		曲輪・土塁 掘立柱建物等		伊万里・信楽		
要約	<p>今回の発掘調査により、大きく3時期の遺構（地形）が確認された。まずは、「竜法師城」期に関係する遺構で、土塁・曲輪・堀を連結する通路が検出されている。また、近世後期には、「竜法師城」期の関連遺構を含む地形の改革が行われたことが確認できるものの、一方で生活の痕跡が希薄であることが明らかになり、そして、近代には、谷川に面した部分を宅地として利用するようになる。この時期の地形改変がもっとも著しく、現況の地形はこの時期に由来するものと判断できた。このように竜法師城遺跡の変遷を当調査により明らかにすることができたと同時に、当遺跡の中心的な位置を占め、形成の契機となる中世後期城館形成時の主要遺構（平坦面A）の竜法師城における構造上の役割、ひいては竜法師城の構造の特徴となる平野部や尾根上、谷奥へと通じるルートを確認できたことを大きな成果と位置づけることができる。</p>							